

IgA腎症診断で新手法

検査キット実用化へ

研究用試薬開発・販売ベンチャーの細胞外基質研究所(本社津市栗真町屋町1577、宮本啓一社長、電話059・231・9480)は、南方系果物ジャックフルーツの種に含まれるタンパク質「ジャカリン」を使って、IgA(免疫グロブリンA)腎症を診断する新たな手法の確立にめどをつけた。血液中のIgAに結合している糖を個別に認識できる技術を開発し、IgA腎症に罹(かか)るリスクや症状の進行状況などを調べる仕組みを見出した。三重大病院なども連携しながら検査キットの実用化を目指すほか、ジャックフルーツの種を使った健康食品を商品化する計画だ。

(津・緒方武志)

血中の結合糖 個別に認識 三重大病院と連携

抗体であるIgAに結合しては小さな糖が結合しており、この糖鎖が異なる糖鎖不全IgAの割合が多いとIgA腎症のリスクが高まると考えられている。

宮本社長は、IgA糖鎖や糖を認識するジャカリンの特性に着目。血液とジャカリンを混ぜるなどして5種類あるとされるIgA糖鎖パターンを調べるとともに、発色試薬を使って糖鎖不全IgAの割合を簡単に測定する手法を確立した。「新規ジャカリン誘導体」として特許を出願している。

同社は今後、診断精度の向上や現行4、5時間かかっている検査時間を数十分以内で短縮する技術研究を進め、臨床試験などを経て実用化を目指す構え。検査キットの販売価格は1セット20人分で10万円程度に抑えたい考えだ。

検査キットができれば、専門医以外でも活用が広がり、IgA腎症の早期発見につながる。同社にとって大事な

業拡大を図れるメリットがある。同社はジャックフルーツの種を健康食品として商品化することも検討している。種の加工方法などの研究を続け、2、3年以内の販売を目指す。宮本社長は「検査キットや食品を実現し、IgA腎症の治療や予防につながれば」と話している。宮本社長は人の細胞を取り囲むタンパク質

(細胞外基質)の「エラスチン」の研究で特許を取得。エラスチンを「として同社を設立し利用した研究用試薬のた。



ジャックフルーツの実の断面



宮本啓一社長

2009年12月24日 中部経済新聞
「IgA腎症診断で新手法 検査キット実用化へ」